

社会福祉法人 中部盲導犬協会

令和5年度 事業報告書

〔概要〕

「中部盲導犬協会の発展と永続のために……」を目標に事業展開した。

盲導犬育成事業部

〔基本事業〕

1. 盲導犬の育成強化 ……別紙1
愛知県・岐阜県・岡山県の助成により、盲導犬5頭を育成貸与した。
2. 飼育費の支給
月額 4,900 円を上限として当協会から貸与している愛知県、名古屋市内の盲導犬使用者に対し補助した。
3. 盲導犬訓練士等の養成
盲導犬訓練士実習生を1名採用した。
4. 盲導犬に適する繁殖と子犬の作出の研究事業
繁殖センターの運用を図り、優秀な子犬の育成に努めた。
5. 普及啓発事業 ……別紙2

<目標>

- ① 視覚障害者および一般市民に対して、身体障害者補助犬である盲導犬の役割を正確に知らせた。
- ② 一般社団法人中部盲導犬協会支援センターと連携した。
 - 1) 盲導犬のデモンストレーションの実施
視覚障害者団体等に盲導犬貸与についての説明や体験歩行などを実施し、盲導犬貸与の促進を図った。
 - 2) 盲導犬体験
視覚障害者の盲導犬に対する、知識を深めるために1日体験会を実施した。
 - 3) 見学会の開催
個人や団体に対し、盲導犬への正しい理解と接し方などを啓発した。

4) イベント参加

各種イベントに参加して、盲導犬の理解を深めると共に動物愛護についての啓発を行なった。

5) 講師派遣

小・中学校、高校などへ出向き、総合学習などの授業を通して盲導犬への理解を深めた。

6) パンフレットの配布

盲導犬事業に対して幅広い市民の理解と協力が得られるように、視覚障害者関係団体や見学者等に配布した。

7) 協会ホームページの活用

インターネットやSNSの内容の充実を図り、盲導犬に対する理解と支援の輪を広げた。

8) 機関紙「ニューハーネス」の発行

協会事業の周知と情報開示を図った。

6. 職員研修会の実施

全国盲導犬施設連合会の研修をはじめ障害者関連の施設や盲導犬訓練施設など他協会にも派遣し職員の資質向上を図った。

7. ボランティアの強化

高校生サマーボランティアや中学生ボランティア体験は、コロナ感染症拡大後久しぶりに受け入れした。

8. 運営基盤の強化安定

1) 盲導犬育成の支援団体の拡大

各法人、団体、組合、学校等からより多くのご支援が得られるよう努めた。

2) 会費会員について

法人・個人に盲導犬育成事業についての理解を深めた。

3) リサイクル活動の促進

・書き損じハガキの回収運動

書き損じハガキを回収して運営資金や通信費として活用した。

・アルミ缶回収

アルミ缶回収運動の輪を広げ、盲導犬育成に役立てた。

〔連携事業〕

1. 一般社団法人中部盲導犬協会支援センターと連携した。
2. あけびの会との連携
恒例の盲導犬使用者と慰霊祭・研修会等は実施したが、ハイキングは、コロナ感染症拡大防止のため実施できなかった。
3. 豊田東名ライオンズクラブ「中部盲導犬協会後援会」の協賛事業
豊田東名ライオンズクラブを中心とした後援会の協賛事業としての、盲導犬チャリティーゴルフ大会に参加した。
4. 全国盲導犬施設連合会との連帯
連合会が実施する事業に参加し協力した。
5. 愛知視覚障害者援護促進協議会との連携
視覚障害者援護講習会等に講師派遣するとともに共催講習会も実施した。

〔重点事業〕

- ・岐阜大学との連携
盲導犬の人工授精に関する研究の一環で凍結精液を作成した
- ・財政基盤の安定
街頭普及活動を支援センターと連携し、普及啓発活動を実施した。
(名鉄百貨店前・イオン新茶屋及び尾張地区・三河地区等)

福祉事業部

〔基本事業〕

- ・居宅介護（ホームヘルプ）事業 ……別紙 3
名古屋事業所、浜松事業所の運営。
- ・特別養護老人ホーム 翠華の里 ……別紙 4
盲導犬及び家族同様のペット犬と一緒に入居可能な特別養護老人ホームの運営。(新城市湯谷温泉地区・定員 100 名)

以上

盲導犬育成報告

別紙 1

犬番	パピーウォーカー 委託中	基本訓練	誘導訓練	訓練終了
1			→	名古屋市貸与
2			→	岐阜県貸与
3			→	PR犬
4			→	キャリアチェンジ
5			→	岡山県貸与
6			→	キャリアチェンジ
7			→	岐阜県貸与
8			→	キャリアチェンジ
9			→	キャリアチェンジ
10			→	キャリアチェンジ
11			→	キャリアチェンジ
12			→	訓練中
13			→	共同訓練中
14			→	訓練中
15			→	愛知県貸与
16			→	繁殖犬
17			→	繁殖犬
18			→	キャリアチェンジ
19			→	キャリアチェンジ
20			→	キャリアチェンジ
21			→	キャリアチェンジ
22			→	キャリアチェンジ
23			→	繁殖犬
24			→	キャリアチェンジ
25			→	キャリアチェンジ
26			→	訓練中

盲導犬育成報告

犬名	パピーウォーカー委託中	基本訓練	誘導訓練	訓練終了
27			→	キャリアチェンジ
28			→	キャリアチェンジ
29			→	訓練中
30			→	訓練中
31			→	キャリアチェンジ
32			→	訓練中
33			→	キャリアチェンジ
34			→	繁殖犬
35		→		訓練中
36		→		訓練中
37		→		訓練中
38		→		訓練中
39		→		訓練中
40		→		訓練中

令和6年3月末日現在保有犬

盲導犬	35頭
訓練犬	12頭
繁殖犬	19頭
PR犬	4頭
パピーウォーカー委託中	19頭
委託前子犬	0頭
合計	89頭

繁殖事業

1. 交配

件数 5件

2. 出産

件数 4件
産子数 25頭（内、死産有り）

3. パピーウォーカー関連

委託 19家庭
しつけ教室 32回開催

4. 繁殖犬の引退と導入

- ・繁殖雌犬2頭引退
- ・繁殖雄犬1頭引退
- ・繁殖雌犬2頭導入
- ・繁殖雄犬2頭導入
- ・現在、繁殖雄犬9頭（内、AGBN委託犬1頭）と繁殖雌犬10頭（内、AGBN委託犬0頭）で合計19頭を所有

5. 凍結精液の作成(岐阜大学との連携)

2回

普及啓発事業

事業名	内容・実施数
講師派遣	小・中学校、高校などへ出向き、盲導犬の授業を行う。 (60～90分) 盲導犬への正しい理解と街中で出会った際の接し方などを啓発する。 啓発件数 59件 講師料総額 ¥961,200
見学会	4階大ホールにて個人・団体に向けて実施。定員120名。 盲導犬への正しい理解と接し方などを啓発する。 啓発人数 約930名 参加費総額 ¥262,500
イベント	各種イベントやお祭り、ショッピングモール等で、募金活動・チャリティーグッズ販売・デモンストレーション等を実施し、盲導犬の正しい理解を呼びかける。 56件
※支援センターと連帯 募金活動	街頭募金活動 (名鉄百貨店前、東山公園前、大須商店、各店舗など) 1,262回
友の会	*ボランティア育成 104名 新規 13名
会員	特別会員 54名(内、新規会員：5名) 普通会員 256名(内、新規会員：23名)
ボランティア養成	あけびの会・学生ボランティア講習会 0件 生活支援連携 インターンシップ受入3名 高校生夏期サマーボランティア受入4名
自動販売機	新規設置：1台 継続設置：41台 計42台
学会・研修会	加盟施設職員相互研修(現地及びオンライン参加)
機関誌「ニューハーネス」	3,000部(墨字版・4月発行) 2,800部(墨字版・10月発行) 45部(音声ファイル版)×2回(4月、10月発行)

訪問介護事業所 サーチ
身体介護・家事援助

事業報告 (障害福祉サービス・介護保険)

別紙 3

移動支援

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	159	身236家13	8
5	158	身232.5家14	8
6	155	身233.5家15	8
7	150	身227家15	7
8	163	身237家15	8
9	154	身233.5家12	7
10	161	身237家10	7
11	158	身230.5家17	7
12	159	身235家10	7
R6.1	149	身219.5家15	7
2	145	身214.5家13	7
3	170	身257家20	8
年度計	1881	身2793家169	89

重度訪問介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	143	389.5	9
5	163	394.5	9
6	150	395	10
7	155	408	9
8	148	487.5	8
9	147	365	8
10	153	395	8
11	148	370.5	10
12	155	381.5	8
R6.1	147	354.5	8
2	147	328.5	9
3	147	348	10
年度計	1803	4617.5	106

※職員・専従 6名(介護福祉士)・非専従 2名(介護福祉士)・介護職員初任者研修修了者)

※利用状況 障害契約者 11名(居宅介護・重度訪問介護10名 移動支援1名) 介護保険契約者1名 男性7名・女性4名(男性1名は介護保険併用)

※障害支援区分 区分4 1名 区分5 1名 区分6 9名 介護保険区分 要介護4

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	1	1	1
5	1	1	1
6	1	1	1
7	1	1	1
8	1	1	1
9	1	1	1
10	1	1	1
11	1	1	1
12	2	2	1
R6.1	1	1	1
2	1	1	1
3	1	1	1
年度計	13	13	12

介護保険 身体介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	63	63	1
5	63	63	1
6	63	63	1
7	63	63	1
8	61	61	1
9	63	63	1
10	61	61	1
11	63	63	1
12	63	63	1
R6.1	61	61	1
2	61	61	1
3	63	63	1
年度計	748	748	12

訪問介護事業所 サフイー 事業報告 (障害福祉サービス・介護保険)

別紙 3 - 2

移動支援

身体介護・家事援助

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	97	身57.5 家55.5	11
5	102	身57 家61	14
6	101	身55 家61	11
7	97	身54.5 家61.5	10
8	101	身58 家49	10
9	96	身57 家62.5	10
10	93	身44.5 家63	10
11	95	身55 家64	10
12	107	身66.5 家71	12
R6.1	107	身64 家70	12
2	106	身58.5 家78.5	12
3	114	身64.5 家81.5	13
年度計	1216	身692 家778.5	135

重度訪問介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7	0	0	0
8	0	0	0
9	0	0	0
10	0	0	0
11	0	0	0
12	0	0	0
R6.1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
年度計	0	0	0

※職員・専従 3名(介護福祉士)・非専従 1名(介護福祉士)

※利用状況 障害契約者 15名(居宅介護13名 移動支援2名)

※障害支援区分 区分2 4名 区分3 5名 区分4 2名 区分6 2名 児童2名

男性10名・女性5名

児童2名

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	0	0	0
5	1	1	1
6	2	2	1
7	0	0	0
8	3	10	2
9	0	0	0
10	2	2	1
11	1	1	1
12	0	0	0
R6.1	0	0	0
2	1	2	1
3	5	11	3
年度計	15	29	10

介護保険 身体介護・生活介護

月	訪問回数	訪問時間数	利用者数
R5.4	41	身25 生17	3
5	42	身25.5 生18	3
6	43	身26.5 生17	3
7	46	身27 生17.5	3
8	46	身27.5 生18	3
9	46	身27 生17.5	3
10	34	身21.5 生17	3
11	30	身20 生17.5	2
12	30	身19 生17.5	2
R6.1	27	身18 生15.5	2
2	29	身19 生16.5	2
3	30	身19 生17.5	2
年度計	444	身275 生206.5	31

特別養護老人ホーム運営事業

高齢化した際に盲導犬及び家族同様のペット犬と一緒に入居可能な特別養護老人ホームの運営。(新城市湯谷温泉地区・ユニット型・定員100名)

1. 事業所名 特別養護老人ホーム翠華の里
2. 場所 新城市豊岡字田ノ島 52 番 9
3. 指定年月日 介護老人福祉施設 平成 31 年 4 月 1 日
介護予防短期入所生活介護(空床利用型)令和 4 年 8 月 1 日
短期入所生活介護(空床利用型)令和 4 年 8 月 1 日
4. 指定機関 東三河広域連合
5. 対象者
介護老人福祉施設
 - ・要介護 3 以上の認定を受けた要介護者
 - ・要介護 1 及び 2 の認定を受け、かつ保険者等が特例(独居・認知症など)入居を認めた要介護者
 介護予防短期入所生活介護及び短期入所生活介護
 - ・要支援 1 及び 2 及び要介護 1～5 の認定を受けた要介護者
6. 従事者

職種	R5. 4. 1		採用		退職		R6. 3. 31	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1						1	
生活相談員	2				1		1	
介護支援専門員	1						1	
介護職員	41	9	5	3	9	2	37	10
看護師	1	3		1			1	4
機能訓練指導員	1		1		1		1	
管理栄養士	1		1				2	
事務員	1						1	
業務員(洗濯)		3						3
業務員(宿直)		4		2		2		4
業務員(運転手)		2						2

家事支援員		4		3		2		5
合計	49	25	7	9	11	6	45	28
	74		16		17		73	

※R6. 3. 31 在職者数は 3. 31 付で退職及び 4. 1 付で異動予定の職員は含まない。

7. 施設理念

人を愛し
地に感謝し
天に祈る

8. 施設行動指針

明るい笑顔で交わす挨拶
来た道 行く道 すべてが大切な人生
ルール守って楽しい毎日
地域と共栄 翠華の里

9. 事業内容

(1) ケア全般

施設の健全な環境継続に努め、利用者の人間性を尊重し明るく楽しい施設にすると共に、個別ニーズを把握し、より質の高い介護サービスの提供を図った。

ユニットケアの効果的な実践のため、ハードの意味をしっかりと理解し、ソフト面においても、ユニットの固定配置の必要性と継続を常に意識し、なじみの関係を構築した。

(2) 生活相談

利用者の生活歴や心身状況を適切に把握し、認知症等で訴えが困難な入居者の課題についても迅速に対応できるよう努めた。

個別的な声かけの工夫に努め、言葉だけでなく常に笑顔で優しい応対をし、心に響くコミュニケーションがとれるよう援助した。

家族とのつながりを大切にした支援に努めた。

生活相談は入居から退居に至る過程すべてのトータルマネジメントであるという認識のもと、本人を核とし、施設における利用者の生活全般及び、本人を取り巻く家族の精神面等を支援した。

(3) 連絡調整

各スタッフの価値観をすり合わせながら、多職種連携を円滑に行い、利用者の状態変化については、それに至る経過も含め迅速に家族等に報告した上で、対応を適切に行えるよう努めた。また、利用者や家族が今後の生活を円滑に進めることが出来るよう、医療機関等と連携のもと、予見も含めた上で必要な対応策や情報の提示を行い、選択、決定時のサポートに努めた。

入居後も、面会にとどまらず、あらゆる面で関わりを持ってもらうことで精神的なつながりが継続され、利用者と家族がともに豊かに生き続けることができるよう支援した。

(4) ケアマネジメント

利用者の心身機能維持向上に向け、計画を立案し実施経過の確認に努めた。

多職種連携のもと、必要に応じてプラン変更を行い実践することで、利用者の自律性の向上につなげた。

(5) リスクマネジメント

自立支援や危険の予見、回避対策等を常に念頭に置き、利用者の支援に努めた。

またリスクマネジメント実践の意義を、全職員に浸透させるよう推進し、事故データやヒヤリハット報告の解析結果を実践に活かした。

見守り支援システム等の活用等にて、予見に基づくケアを展開した。

(6) 教養娯楽

余暇活動の必要性を重んじ、ユニットごとや全体での催し等を計画,実行した。

含めて、個別の余暇活動の支援も重んじて支援した。

新型コロナウイルス感染症の増加により、地域社会とのふれあいや施設周辺への外出は実施できなかった。

(7) 身体,精神ケア

① 食事,水分摂取等に関するケア

管理栄養士と連絡調整し、利用者にとって食べやすい工夫をし、必要に応じて自助具などの活用を行った。また、利用者より希望があれば疾患の有無関わらず、出来るだけ希望に沿える対応をした。

② 排泄に関するケア

利用開始後の排泄パターンの把握と尿量測定の上、排泄アイテムを選定し、個々の利用者に合わせた排泄ケアに努めた。

排泄支援をまわりに意識させないよう、排泄ケア時はトートバッグ等の使用にて訪室対応するなど、尊厳を意識したケアを実践した。

シャワーボトルやホットタオルを使用し、陰部,臀部の皮膚疾患予防,改善に努めた。

③ 入浴,清拭等に関するケア

入浴準備,誘導から入浴終了,居室誘導までの一連の対応は、マンツーマンで行うことを基本とし、個々の身体状況や好みに合わせた入浴対応を実践した。

清潔保持と爽快感(気分転換)を味わってもらうよう努めた。

入浴が出来ない時(体調不良等)は、清拭,着替えを行うことで清潔保持に努め、実施後は保温に努めた。

④ 洗面,口腔清潔,整容,更衣に関するケア

衛生面に十分留意し、個々のニーズに沿ったケアを行った。

清潔保持に心がけ、下着,靴下の交換、身だしなみを整え、気候に応じた衣類の調節等に努めた。

⑤ 基本動作介助

個々の意志を尊重し、現存機能を活かした介助に努め、福祉用具使用上の工夫に努めた。

⑥ 健康に関するケア

個々のバイタルサインの把握と介護士間および看護師との連絡調整を密にし、体調管理に努めた。

また、快適に過ごせるような室内温湿度に配慮した。

⑦ 心理,社会面等に関するケア

個人を尊重した生活の援助,行動障害の緩和、身体拘束軽減等の取り組みに重点を置いた。

ゆったり過ごしてもらえる心身のケアをし、趣味や個々の持っている現存機能を引き出す援助を展開した。

(8) 医療,看護ケア

利用者の実態を的確に把握し、嘱託医師と常に連絡をとり、疾病の発生,悪化予防に努めた。

新型コロナウイルスをはじめ、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症等について、発生予防に努めたが、令和6年1月に新型コロナウイルス感染者が利用者14名、職員11名発生した。その後にマニュアルの見直しを行い、蔓延予防に留意した。

口腔ケアの徹底により、肺炎予防と口腔内の清潔保持に努めた。

介護士と協力し、排泄の自立を促がし、陰部、臀部の皮膚疾患予防に努めた。

利用者、家族の意向を早期に確認の上、希望がある場合にはそれに沿い、看取りについての取り組みを可能な範囲で実践した。

(9) 機能訓練

各利用者,家族の意向に沿った機能訓練計画を作成し、廃用性の機能低下予防のため離床に心がけ、現存機能の維持,向上に努めた。生活の中での機能訓練を常に意識し、介護,看護協同のもとに展開した。また、メリハリのきいた生活リズムの確立に努めた。

日常生活の中での余暇活動を活かし、楽しんで機能訓練ができるよう支援した。

(10) 栄養

栄養については、栄養ケアマネジメントを通して、各部署と連携を図り、個々の利用者の状態把握をし、適切な形態の食事から栄養をとる事ができる様に努めた。何より、利用者が満足して食事を摂ることかできることを最優先した。

衛生面に留意し、食中毒等の発生予防策を講じた。

(11) 職員研修

施設内、施設外研修を通じて、職員の資質向上を図り、利用者の立場にたったサービス提供が行えるような体制作りを努めた。キャリアパス制度のもと、職域における目標を明確化した。その上で仕事に対するスキルを効率よく高められるようにした。

定期研修を実施し、職員の意識統一とモチベーションアップにつなげ、資質向上を目指した。

排泄ケアや各種感染症等の勉強会をリモート及び外部講師等を招くなどし行うことで、全体のスキルアップを目指した。

(12) 防災計画

消防署に提出する消防計画を軸に、年2回以上の消防・防災訓練を実施し、利用者の安全確保を徹底した。

非常食の賞味期限を確認しながら計画的な入れ替えを行った。

(13) 地域交流

新型コロナウイルス感染症による活動制限のため、外出を控え同一敷地内の盲導犬関連施設の活用や屋内活動にとどまった。

(14) 各介護保険関係機関との連携

居宅介護支援事業所をはじめ、各居宅、施設サービス機関との連携を密にし、よりよいサービス提供ができるよう努めると共に、安定運営を常に意識した。

(15) 介護機器及び介護ロボット等の有効活用

個々の利用者の心身状態にあった機器選定に努め、効果的なケアの展開を行った。補助金の活用等を推進し、利用者の生活の質の向上と、職員の職場環境のさらなる向上に努めた。

10. 年間行事

4月 花見（施設周辺で花見）

5月 端午の節句（鯉のぼり飾りつけ、菖蒲湯）

6月 壁面工作（全ユニット協力して紫陽花を作成した）

7月 七夕（短冊を飾った）

8月 縁日（ヨーヨー釣りやかき氷を楽しんだ）

9月 敬老会（行事食を提供し長寿を祝う）

10月 ユニットごとにハロウィンや手作りおやつを楽しんだ

11月 映画鑑賞（週替わりで歌謡ショーなどを鑑賞した）

12月 クリスマス会（飾り付けをし、手作りおやつを楽しんだ）

1月 お正月（鳥居、絵馬、おみくじを作り初詣の雰囲気を楽しんだ）

2月 節分（鬼を退治して一年の健康を願う）

3月 ひな祭り（ひな人形を飾り華やかな春を満喫）

1.1. 入居受入計画

長期的に安定した施設経営を目指すために稼働率97%を目標としたが、退居者数が新規入居者数を上回ったことや待機者の確保が出来ず達成できなかった。

空床利用型短期入所事業は、利用者の入れ替わりもあり利用日数が安定しなかった。

【入居状況】令和5年度

【短期入所】

月	入居者数		退居者数 (看取り)	入院 者数	在籍 者数	稼働率	利用者数 (実人数)	利用 日数
	男性	女性						
4	0	4	2	7	83	81.0%	1	23
5	4	2	3(2)	5	86	83.7%	1	27
6	1	3	1(1)	5	89	87.2%	4	41
7	1	1	0	4	91	90.1%	3	12
8	1	3	7(3)	4	88	89.6%	1	3
9	0	2	2	8	88	88.7%	3	16
10	0	2	3(2)	11	87	87.0%	3	22
11	0	4	3	10	88	88.4%	5	25
12	0	0	4(2)	7	84	86.0%	5	19
1	0	0	0	7	84	84.0%	1	2
2	2	1	6(1)	10	81	82.2%	2	6
3	1	1	5(2)	9	78	80.4%	2	7
計	10	23	36(13)	87	78	平均 85.6%	12	203

【要介護度別】令和6年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度
男	3	4	7	3	2	19	3.0
女	4	6	24	19	6	59	3.3
計	7	10	31	22	8	78	3.2

※平均介護度は短期入所を除く。

【年齢構成別】令和6年3月31日現在

	男	女	計
59歳以下	0	0	0
60～64歳	0	0	0
65～69歳	1	3	4
70～74歳	2	1	3
75～79歳	2	3	5
80～84歳	1	6	7
85～89歳	7	17	24
90～94歳	4	18	22
95～99歳	2	9	11
100歳以上	0	2	2
計	19	59	78

【市町村別】令和6年3月31日現在

		男	女	計
愛知県	新城市	9	37	46
	豊川市	3	5	8
	豊橋市	2	2	4
	設楽町	3	4	7
	東栄町	0	2	2
	豊根村	0	1	1
	岡崎市	1	0	1
	名古屋市	1	2	3
静岡県	浜松市天竜区	0	5	5
長野県	飯田市	0	1	1
計		19	59	78

【施設内研修】

月	テーマ	対象者
4	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理・法令遵守・プライバシー保護について ・施設理念と高齢者の尊厳について 	全職員
5	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害について ・高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止について 	全職員
6	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症及び認知症ケアについて ・食中毒の発生の予防及びまん延の防止について 	全職員
7	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束排除の知識について ・褥瘡予防とスキンケアについて 	全職員
8	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇について ・事故発生予防またはその再発防止について 	全職員
9	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的ケアについて 	全職員
10	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束等の排除のための取り組みについて 	全職員
11	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の発生等緊急の対応について ・排泄及びオムツの当て方について 	全職員
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルケア及びグリーフケアについて ・アンガーマネジメントについて 	全職員
1	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止について 	全職員
2	<ul style="list-style-type: none"> ・医療連携に必要な知識と技術について ・排便コントロールについて発表 	全職員
3	<ul style="list-style-type: none"> ・排便コントロールについて発表 	全職員

【外部講師研修】（研修数 16／参加延べ人数 36 名）

月	テーマ	職種	人数	
4	【オンライン】 ・個人情報管理について	生活相談員	1	
5	【オンライン】 ・ユニットリーダー研修	介護職員 看護師	1 1	
6	【外部講師集合型】 ・救命講習	職員	8	
7	【オンライン】 ・口腔ケアについて ・安全対策担当者養成研修	介護職員 介護職員	1 1	
9	【オンライン】 ・対人援助について ・介護保険制度改正の概要について	介護職員 生活相談員	1 1	
	【外部集合型】 ・口腔ケア研修	介護職員	2	
	・福祉現場職員としての基礎	介護職員	1	
	【外部講師集合型】 ・救命講習	職員	7	
10	【外部集合型】 ・施設見学及び完全調理済食品の提供について ・東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会	管理栄養士 施設長 介護職員	2 1 3	
	1	【外部集合型】 ・化学的介護情報システム（LIFE）研修会 ・ケアテックス名古屋	生活相談員 管理栄養士	1 2
		2	【オンライン】 ・職に係る職員のためのユニットケア研修 ・特養の空床はなぜ生まれるのか	管理栄養士 施設長

以上